

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課

担当課長名：中島威夫

| | | | | | |
|--------------------------|---|--|--|-------|--------|
| 事業名 | 一般国道270号 <small>みやざき</small> 宮崎バイパス | 事業区分 | 一般国道 | 事業主体 | 鹿児島県 |
| 起終点 | 自：鹿児島県日置郡金峰町宮崎 至：鹿児島県日置郡金峰町中津野 | 延長 | 4.5 km | | |
| 事業概要 | 一般国道270号は、鹿児島県枕崎市を起点として1市4町を經由して日置郡市来町へ至る薩摩半島を縦断する延長約57 kmの幹線道路である。本工区は、朝夕の交通渋滞解消や豪雨時の路面冠水の解消を図るとともに、地域の産業、観光の発展に資することを目的とした延長4.5 kmの2車線道路である。 | | | | |
| H元年度事業化 | H年度都市計画決定 (H年度変更) | H元年度用地着手 | H3年度工事着手 | | |
| 全体事業費 | 60億円 | 事業進捗率 | 54% | 供用済延長 | 2.7 km |
| 計画交通量 | 10200台/日 | | | | |
| 費用対効果 分析結果 | B/C (事業全体) 2.4 (残事業) 2.2 | 総費用 (残事業)/(事業全体) 27 / 44億円 (事業費：29/41億円 維持管理費：2/2億円) | 総便益 (残事業)/(事業全体) 60 / 107億円 (走行時間短縮便益：60 / 104億円 走行費用減少便益：0 / 2億円 交通事故減少便益：0 / 0億円) | 基準年 | 平成15年 |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保（当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する） 物流効率化の支援（農林水産業を主体とする地域に於いて農林水産品の流通の利便性が向上） <p style="text-align: right;">他3項目に該当する</p> | | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 | 本路線は、半島振興法に基づく薩摩半島循環道に指定しており、薩摩半島の南北を結ぶ主要幹線道路であるため地元も早急な整備を望んでいる。（平成12年1月） | | | | |
| 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 | 吹上浜海浜公園、県立農業大学の整備がなされ施設利用者の入り込みが増加している。 | | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 | 家屋移転の調整、埋蔵文化財の発掘調査等のために時間を要したが、平成15年までに宮崎地区側から2.7 km区間の整備を完了した。 | | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 | 平成15年度に残事業区間の工法見直し、建物調査を完了した。平成16年度で用地買収を完了させ、全線にわたり工事に着手し、平成19年度に全線供用予定である | | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 | 高架橋で計画していた区間を盛土工法に見直す等コスト縮減を図っている。 | | | | |
| 対応方針 | 事業継続 | | | | |
| 対応方針決定の理由 | 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。 | | | | |
| 事業概要図 | <p>事業箇所 宮崎バイパス L = 4.5 Km</p> <p>供用済 L = 2.7 Km</p> <p>凡例 供用中 事業中 再評価箇所 未供用中</p> | | | | |

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。